すべてのいのちを守るための月間 2022.9.1-10.4

9.1 - 9.10



キャンペーンの羅針盤である 回勅『ラウダート・シ』『兄弟の皆さん』とともに この月間をすごして いきましょう

すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り

ご自分の優しさで包んでくださいます。 あなたはお造りになったすべてのものを 宇宙万物の造り主である神よ、

気づくことができるよう、 この世界で見捨てられ、忘れ去られた人々の叫びにわたしたちが傷つけてしまった地球と、 一人ひとりの心を照らして下さい。

貧し わたしたちの役割を示して下さい。 ともに暮らす家である地球を大切にできるよう、 無関心を遠ざけ、 い人や弱い人を支え、

あなたの愛の道具として遣わしてください。 聖霊の力と光でわたしたちをとらえ、 すべてのいのちを守るため、 よりよい 未来をひらくために、

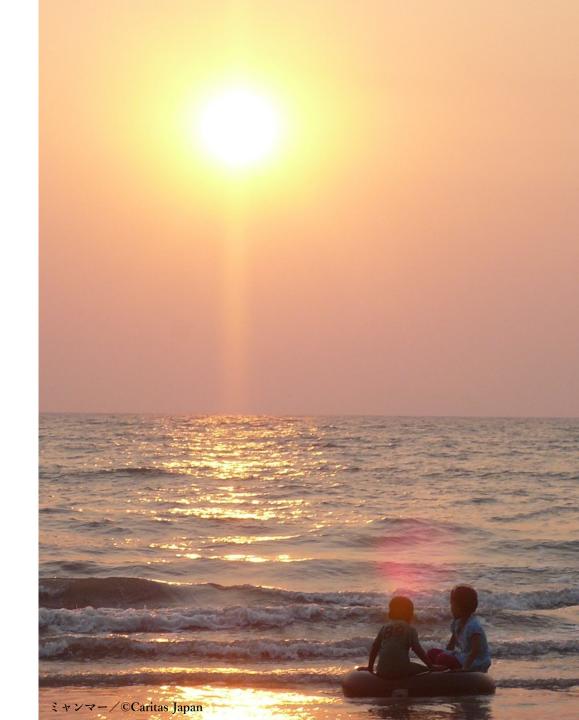
あなたを賛美することができますように。 すべての被造物とともに

わたしたちの主イエス・キリストによって。

9/2 (金)

この回勅*は、喜んですべての人と対話しながら、 ともに解放への道筋を探るものですが、わたしは まずもって、キリスト者たちにそして他の信仰者 たちにも、自然を、そしてもっとも弱い立場に置 かれた兄弟姉妹たちを大切にするに十分な動機を、 信仰上の確信がどのように提供しうるかを示した く思います。人であるという単純明快な事実が、 自分たちがその一部である環境を大切にするよう 人々を動かすとすれば、「とくにキリスト者は、 被造界にあっての責任と、大自然と創造主に対す る義務とが、自分の信仰の本質的な部分をなすと 悟り」ます。

> * 『ラウダート・シ』 LS § 64





ることです。同じ家に住む「わたしたち」 にすることは、わたしたち自身を大切にす にならなければなりません。

F T § 17

わたしたちを包み込んで支える世界を大切

9/4 (日)

被造物を大切にする世界祈願日

各共同体は、生存に必要なものなら何でも大地の恵みからいただくことができますが、大地を保護し、その豊穣さを将来世代のために確保する義務を有してもいます。「地は主のもの」(詩編24・1)であり、「地と地にあるすべてのもの」(申命記10・14)は主に属します。 LS§67

9/5 (月)

わたしたちは、環境危機と社会危機という別個の二つの危機にではなく、 むしろ、社会的でも環境的でもある一つの複雑な危機に直面しているのです。 解決への戦略は、貧困との闘いと排除されている人々の尊厳の回復、 そして同時に自然保護を、一つに統合したアプローチを必要としています。 LS§139

Niger/ ©Sam Phelps/Caritas

9/6 (火)

世界はすべての人のために存在しています。人は皆、同じ尊厳をもって、この地球に生まれるからです。肌の色、宗教、能力、出生地、居住地、その他多くのことの違いを、重視したり、皆の権利を損なって一部の人の特権を正当化することに利用したりしてはなりません。それゆえ共同体としてわたしたちには、すべての人が尊厳をもって生き、十全な発達のための適切な機会が得られることを保障する責務があるのです。

FT § 118

9/7 (7K)

地球という、ともに暮らす家を大切にすることについて 話すときには、普遍的良心、そして今なお人々の間に残 る相互扶助を案じる思い、それらささやかなものに訴え ています。もし自分には存分に水があっても人類をおも んぱかってそれを大事にするというならば、それは、自 分自身を、また自分が属する集団を、超え出て行ける倫 理的レベルに到達しているからなのです。これは実に人 間らしいことです。まさにこの姿勢が、一人ひとりの権 利を認めるためにーその人が国境の外で生まれた人だと しても一求められています。 FT § 117



です。 時間ではなく出会いの時間だというこ 人ひとりの存在は他者の存在と深く結 ているということ、 いで示したのは、 人生はただ過ぎ

F

T § 66

東日本大震災/©仙台教区サポートセンター

9/9 (金)

気候変動は、環境、社会、経済、政治、そして財の分配に大きく波及する地球規模の問題です。それは、現代の人類の眼前に立ちはだかる重大な課題の一つです。

貧しい人々の多くは、温暖化がら みの諸現象にとくに影響されやす い地域で暮らしており、自然にあ るものや生態系の恩恵に大きく依 存する農・林・漁業のような生業 によって暮らしています。



9/10 (<u>士</u>)

ともに編むのです。ともに編むのです。のでは、対影を抱いてしまい、そこにないのでは、対影を抱いてしまい、そこにない同体が必要なのです。共同体が必要なのです。ともに編むのでは、支えてくれる、助けてくともににに立ち向かえる人はいません。

